

マダイ日本海西部・東シナ海系群に関する研究機関会議
(令和3年度マダイ日本海西部・東シナ海系群の管理基準値等に関する研究機関会議)
議事要録

開催日時：令和3年11月24日(水) 15:00 ~ 17:00

開催方法：Microsoft Teams によるオンライン会議

参加機関数：11 機関 計 42 名 (有識者 2 名含む)

【会議の概要】

令和3年8月3-4日に開催された令和3年度西海ブロック資源評価会議において承認された後、パラメタおよび年齢別漁獲尾数の計算方法の見直しを行って10月18日に再承認された「令和3年度マダイ日本海西部・東シナ海系群の資源評価結果」に基づいて、再生産関係ならびに資源管理基準値の提案を行い、この結果をもってSH会議への提出資料とすることが承認された。

【出された意見】

- ・再生産関係に関し、観測範囲外の仮定の信頼性について検討すべきとの指摘があった。
- ・本会議で提案する資源管理基準値案ならびに将来予測の漁獲量は、現在利用可能なデータを元に生物のポテンシャルとしてのMSYを目標とした結果、現状から大幅に漁獲量を削減する提案となっていることについて、以下の通り多くの議論が割かれた。
- ・目標管理基準値案とする親魚量が、資源量の推定を行っている1986年以降で経験したことがない大幅な外挿値になっており、この計算には成長や自然死亡係数に対する密度効果が考慮されておらず不確実性が高いという点を明記しておく必要があるとの意見があり、会議資料ならびに提案書に記載することとした。
- ・現状の親魚量が目標管理基準値案を大幅に下回るという結果が、従来の資源評価において資源量や漁獲量が安定して推移していたことと整合しないのではないかとの意見があり、安定して推移してきた水準程度の資源を維持する親魚量は確保されてきたと考えられる一方、漁獲圧を下げることによって親魚量が増加するという計算結果になることが説明された。
- ・MSYを達成した際の漁獲物の年齢組成は7歳以上の高齢魚が漁獲重量の3割以上を占めるなど、現状と異なると予測されている点について、とくに明記しておくべきとの意見があり、このことについても会議資料ならびに提案書に明示することとした。

- ・漁業に対する影響を考慮し、漁業現場への説明にあたっては表現を工夫するなど、より丁寧にわかりやすく行うべきとの意見があり、了解された。